

400

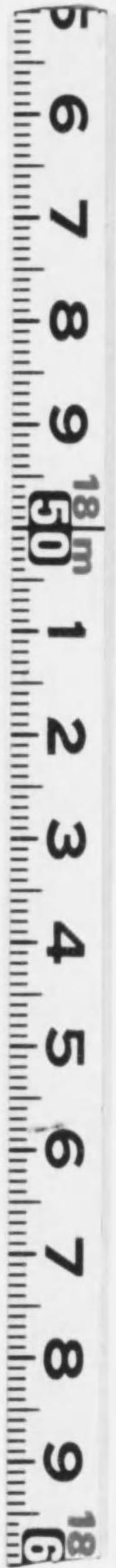
特252

385

二二六百年

世界の大轉換と人類の危機興亡の岐路に
立つ憂國の志士出でて國家の羅針盤たれ

大日本精神



始



特252
385



目次

言……………一

神と三種の神器を科學的に立證す……………六

大日本精神と宗教の歸一……………二一

將來歸趨すべき經濟の原理と統制に就て……………二五

現代の世界實相と大日本の使命……………二五



緒言

全人類は各層に互つて一大轉換期に直面し、既に動搖の端は東西に起り、其の餘震は全地上を覆ひ何時果つ可くも豫想し難き狀勢にある。今日特に重大使命を課せられたる我が日本國民は、此の光輝ある二千六百年祭を楔機とし、敢然立上り、我が神國日本の大任を果さざる可からず。

想ひ見よ、我が有色亞細亞民族は世界最古の文化を有し、而も大聖者は亞細亞人に非ざるは無し。又最高形而上學的文化の大部分は亞細亞人の手より創造され、又今より僅か七百年の昔、彼の茫漠たる蒙古の原野に、呱呱の聲を揚げし成吉思汗は、今日の如く何等文明の利器を用ひず、只空手單身、寒風砂塵渦卷く荒涼の野に、豪然と立ち上り氣魄三界を覆ひ、意氣天地を貫き、一端呼號すれば、雲を呼び山川を震動せしめんず勢にて、遂に歐亞を席捲せしめ、今尙、王族の中に彼の生血

の支流は脈打ちつゝあるのである。此等を見ても如何に歐米人より勝れたるかは明瞭である。

然し乍ら盛衰は天の大法、如何とも致し難く、こゝ三百餘年間の物質文化時代は白人の專横する所となり、彼の海賊的野獸性を發揮し、全亞細亞に到らざる處なく毒牙を振り、再起し能はざる迄に、慘忍酷使され、今尙益々壓迫し來りつゝ有るも只我國のみ皇國の威徳により、直接の暴壓は免がれたりと雖も、經濟に、思想に、外交に、全面的に互り挑戦し來りつゝあるを思ふ時、自國は勿論、有色亞細亞人の盛衰存亡は、一に我國策の如何による處にして、而も其の決定的時刻は目前に迫れり。此の重且つ大なる使命は、未だ人類の上に課せられたる事なき大業の前に立ち乍ら、兒戯に等しき小細工にては絶対に成就し難し。鯨には鯨の刀を要し、又大亞細亞建設には大亞細亞建設の大計を用ひざる可からず。

然し今回の大業は亞細亞の再建に非ず、過去數世紀に互り發展し來りし所の物質文化に、精神文化の伴はざりし欠陥の爲め、全世界人類が將に崩壞の苦境に没入せ

んとする此際、亞細亞人の手、吾等の手にて、人類の矛盾を除去し、惡に對し善を以て、報復せねばならぬ時が來たのである。起て憂國の士、出でて國家の羅針盤たれ。優秀世界に誇る日本丸も、羅針盤なき航海は危ふし危ふし。

神と三種の神器を科學的に立證す

神とは宇宙構成の根本原理により、一切萬有を生ぜしむる原動力の現はれを人格化視する處を神と謂ふ。

萬有を生ぜしむる神の法則

大極（鏡）は時空を超越せるその儘の姿である。其のまゝの姿は即ち空にして、在るが儘の空である。

在るが儘の空とは、一切の物が運動を停止せし時である。

又時は運動による變化の尺度に過ぎず。

運動は同時に力（劍）を生ず

二對以上の力の交叉點に於て始めて物（玉）を生ず。

力（劍）は放力と引力（兩刃）とを同時に生じ、他の二大力と相交叉して他の引くも

のを放ち、放つものを引く。

故に停止する事なく、無始無終運動を引起して行くのである。

斯の如く、如何なるものも、引力と放力無きものなし。

故に一定の物質なく、一定の時なし。

換言すれば萬有一切は、力の交叉點にして、交叉點の連續が存在となる。

故に力を去つて物なく、時もなし。

又變化なき所に、力も物もなし。

變化は二物以上にして生じ、一物なる時は即ち空である。

空中に有の出現により、空と有の交叉點は物を發生す。

之即ち神の萬物を生ぜしむるところの法則にして、我國に於ては三種の神器により現はせる一大鐵則である。

大日本精神と宗教の歸一

- 6 -

宗教は煩惱の爲、無明の暗に迷へる衆生を、光明世界に出でしめんとして、眞道に復歸せんが爲、種々の方便を用ひたるも、其時と場所と機根により、示す事の限りなく異りし故、今日にては其の本意を執へ難く、方便に墮し、而も其方便たるや多くは時代に相反し即應せざるにも拘らず、判断力を失へる、盲目的信仰は、遂に身を亡ぼし、印度、ユダヤの如く、國家をも亡ぼすに至れる前例多し。

其他地上到る所に於て、政治上侵略の手段とし、又自らの慾望を充さんが爲めの方便に用ゆる者の續出し、民衆を信仰的に、麻醉せしめつゝある事は、何人も知れる處である。

斯の如く今日にては、宗教の本義を没却し、却つて迷信に陥らしむる用具化せんとしてゐる。

- 7 -

然るに我が 天照大神は、萬物の母にましまして、其の御神徳は三世を照し、餘す所なき御光を放ち、一切衆生の生命を司さどらしめ給ふ大神にまします。

而して 天照大神御鏡を天忍穗耳尊に授けて祝きて曰く「吾が見此の寶鏡を視まさんこと、まさに吾を視るがごとくすべし、與に床を同じくし殿を共にし以て齋鏡と爲すべし」と曰はせられし事は、人意により百千萬劫說法するに勝る、一大御教訓にして、其の御心を拜する時、如何に我肇國の由來の偉大なるかを知る事が出来るのである。

そこに人意的教訓により、汚す事を恐れ、今日迄言擧げせざるに至りし所以である。

之を思ふ時、我が神道に勝る道を現はしたるものは、世の何處にも無し。何んとなれば世の一切の宗教は、人が神佛に向つて作り上げたが故に、人が如何に願ふ共、片便りにて、神意を測り難く、其の御利益の程も知り難し。

然し我が神道は、始より神が人に對し答へ給ふ所の御心である。

故に如何なる者と雖も、生死の別なく救ひ給へる事を、八咫の御鏡により顯はし給ふのである。

神は相對的のものに非ず、絶對愛なるが故に、願ふと願はざるに拘らず、國の東西世の古今を通じて、救はざる所なき、公平平等の大神にまします事は、明鏡に萬物を寫し受け、而も止め、滯らしめざる如くである。

故に人は只、畏敬感謝の念を以つて御奉公申上げ、常に御神鏡の前に立ち、寫る姿は、神の御心にして、その惡は、己が心の穢にて、御鏡を汚がす事を恐れ、出づる時は自ら罪穢を祓ひ、清め淨めて逢ひ奉るこそ、神の子の勤めである。

然し神は御神鏡の上におますのみに非ず、常に吾れと俱に在りて、守らせ給ふ、心の鏡の前に、姿を整へねばならぬ。

此の救ひ救はれ居る身の有難さを、氣附かず、感謝の念も起さず、唯願ひ、救はれんことを祈ることは、却つて御心を汚がすのみならず、救はれ居る身も、穢に陥入らしめる事になる。

斯の如く我が神道は、昔より言擧げせざる最高道なるが故に、方便を用ひず、時代を超越し、今日も亦、未來永遠に、全き道を示せるものである。

世界情勢が現在の如く、混亂せる時こそ、眞の指導精神が必要なるにも係はらず時代に即應せざる、過去の遺物の如き方便を、振廻す事は、何等益なく、益々時代より遠ざからしむるのである。

此の非常時國民の、國家を全からしむるは、億兆一心に統一せざる可からざる時に、最高比類なき建國の源泉たり國體の根幹たる神道を差置いて、亡國の遺物の如き、雜多なる方便に囚はれ、歸趨することなき有様は、大いに自戒す可きである。

眞に歸納すべき眞道は、我が神道を置いて、他に有ることなし。

今日我が日本に於て、各宗の存在し得らるるも、我が神徳に依るの他なし。

我が神道に歸依する事は、一身を修め、一國を安泰ならしめ、そこに始めて神國たる神意が現はれるのである。斯の如く全人類の遵奉す可き、最高の道であり、又萬物を生成發育せしめる所の軌道なのである。

故に人のみ通る道に非ず、一切萬有を歸納せしむ可き、神ながらの道である。神ながらの道の上に躍動する所、即ち大日本精神であり、世界最高の理想にして歸結すべき所である。

將來歸趨すべき經濟原理を統制に就て

皇道經濟とは萬物を生ぜしむる處の、普通の大道の上に生れ出ずる經濟が、即ち皇道經濟である。

言換ふれば其の原理が、人爲的に組織立てられたるものに非ずして、天爲に従ふところに出來上る經濟が、皇道經濟であり、そこには何等の矛盾を生ぜず、共存共榮となり、今日の如く、國の内外を通して、至る所の摩擦は、解消出來るのである。

その皇道は我國に於て、最もよく行はれ居るに拘らず、其の皇道に依て經濟を合理化することをせず、將に崩壞滅亡に頻せる、西洋の謬れる經濟を模倣して、光輝ある我が國をも、混亂の禍中に陥らしむることは、爲政者の大いに反省すべく、國民の警戒すべき重大事である。霸道經濟とは、五官により感受せる色相界を基本に、組織立てられたる今日の經濟がそれである。故に霸道經濟は永遠に理想化する

こと難し。

如何となれば、五官に感ずる一切のものは、眞實ならざるが故である。その例を一、二擧げんには、先づ色を見るに、其の色は物に在るに非ず、光に有るに非ず、目に在るに非ず、その三點の交叉したるところに始めて色を生ず。

故に暗夜に色なく、聾に音なし。音は空氣の波動なるも、耳に聞き取り得る以外の波動は波動なるも音に非ず。その三點は常に、時と場所を變轉して、マンヂの如く廻り一刻も固定することなし。

斯の如く一切萬有は、變轉して常住することなき、唯物の上に、經濟の基礎を置くことは、流水面に樓閣を畫かんとするに異ならず。故に今日の建設は明日の破壊材料となる。

その矛盾は、經濟の破綻となり、世界人類の動亂の原因となるのである。

何事も局部的に見て、判斷を下すことは實に恐るべき危険が伴ふ故に、皮相觀に囚はれず、眞相を徹見して、最も易く、最も完全なる、大自然道、即ち皇道に復歸

せしむることより他に、全き道なし。其の皇道に氣付かざる者の爲すことは、即ち人爲である故に、如何に智慧を絞り、作り上げたる組織も、その反面に必ず、影の如く不善が伴ひ、その不善を除かんが爲に、又新たな法網を設け、遂には水も洩さぬ法網は、目は密に、絲細く、柄杓ひしやくの如く、掬へども魚取れず、強ひて用ふれば網破れて用を爲さず。故に法網は絲太く目荒さがよし。昔より鯨の網にかかる例少く、一本の銛にてよく射止めらる。國法も雜魚萬疋取らんとして、一頭の鯨を逃がすことは上策に非ず。故に國を治めんとするには、法網よりも人を選び、人を以て治めねばならぬ。

萬一、人を得ざる時は、法密なる程、不徳漢のみ法を悪用し、善良なる國法遵守者を屠り、得意の惡棘手段を以て國家の上層に現はれ、世を毒し、國民の自由を奪ひ、時としては國を賣る、逆賊行爲を敢て爲す者が續出するに至る。現に歐洲諸國には種々なる形となつて現はれつゝあり。然し之を對岸視することは出来ぬ。

この儘進む時は自國にも亦斯の如き不祥時無しとは云ひ難し。故に人は人を以て

治め、已むを得ざる法は、人の自由を奪ふ爲めの法ならしめず、只道に歸らしむべき法であらねばならぬ。

現在我國の經濟界を見るに、今日迄資本主義經濟により、明治初年より僅か七十餘年間に於て、東洋の一小國が、世界最大強國の裡に伍するに至りし事は、未だ世に前例なき異常の發展である。これは決して人爲的努力のみに依るに非ず、天の時と地の利によること大なるも、特に資本主義自由經濟の偉大なる力によることは、何人も否定出來ぬ事實である。

然し自由經濟必ずしも、全面に亘つて完全であるとは云へぬ。其の完全ならざるところに向つて、我が經濟界は非常な力を以て進出が出来、斯の如く發展を爲し得たのであるから、其の缺點は我國にとつては必しも悲觀材料にならぬのである。然るに其の一部分の缺點を除かんとして、根本的改革を爲すには深慮を重ね、後着手せねばならぬ。

目下のところ、歐米諸國を見るに經濟的技術に於ては我國の及ざる國にして、尙

新規なる良策を見出し得ざるに先だち、我國は大した經濟的失陥なくして、一大改革に着手せし其の勇氣は、未だ世界に前例を見ざる所である。然し眞の勇氣は勇氣に非ず。

何となれば達人は、當然歸結すべき所に向つて前進するものであるから、何等そこに違算を生ぜず當然爲さざる可からざることを爲すにとどまるのである。然るに落着く先を見極めぬのみか方向も立たずして出發する勇氣は勇氣なるも匹夫の勇に陥るものである。現今西洋には露國を始め獨伊の如く、統制經濟とか、國家社會主義とか、色々變つた制度があるが、孰れも經濟的大患に陥り、已むを得ざる非常手段である薬や手術と云ふものは、病人にのみ必要である。其の病人に用ひ快癒するを見て、健康なる者に手術を施し、大患に陥らしめてはならぬ。

一度大患に陥らしめて、後回復せしむべく治療することは非常に困難である。その困難なる國家の大手術をなし得る者は、今日迄の自由經濟をより良く改革し得られる筈である。要は自由經濟に非ず、統制經濟に非ず、國家全體主義にも非ず、只

爲政者の技倆と誠意に俟つのみである。米屋をして損する者が、綿屋をして儲るに
限らぬ、米屋をして儲る者が、綿屋をして儲るのが常識である。

爲にせんが爲の改革程、國民にとつて此上の迷惑はなし。

眞に改革すべきは皇道經濟あるのみにて、現在世界に行はれつゝある經濟原理は
孰れも完全なるものなく、その形式に趨り、制度を更へることは、膝行を追出して
盲者が這入り、又盲者を追出して啞者に代るに過ぎぬ。

其の實例は前大戰に、統制を徹底せし獨逸は大敗し、今又苦境に陥りつゝある。
又露國は野獸に等しく、殺戮に殺戮を重ね、人道上許す可からざる猛惡振を發揮し
て居ることは萬人の等しく熟知せるところである。

かかる變則なる統制を模倣してはならぬ。

斯の如く人爲的に急造したるものは、外見よく見ゆるも、内面に生命なく、造花
に等しくして、結實しないのである。

今日迄の自由經濟は、不合理の如く見ゆるも、永年に亙り、必要に迫られ、自然

に發達したるが爲め、丁度谷川に水放てる如く、寸分の隙間なく進展しつつあるの
である。一見不合理の如く見ゆるところを、人爲的に改革することは、水なき谷川
に氷塊を移すが如く、すらすらと進行は出來得ないのである。故に自然道即ち、皇
道に復歸せしむべく、統制を加へる以外、小策を弄してはならぬ。故に統制するに
は、自然に順應せしむること、自然に順應せしむることは、各自の機能を充分發揮
せしめ、よりよき生活に入らしむることが、最高の目的であらねばならぬ。そこに
眞の自由があるのである。

然るに、社會形態をよくせんが爲、人の眞の自由を奪ふことは、番犬を飼ふに人
肉を以てするが如きものである。又自然道を見捨てるどころの自由は、放縱となり
綜合的見地よりすれば、自繩自縛に他ならぬ。

前記の如く前獨逸の敗因、今又露獨の内患に陥らんとしつゝあるを思ふ時、我が
統制も深慮熟考の上、最善の策を樹てられ度きものである。

人と云ふものは、特に我が國民は、天災地變にも亂れず、東京の震災の如く益々

團結し、性善を發揮し、そこに始めて神國たる神意が現はれるのである。事小なり、と雖も、人爲的に禍を蒙らしめたる時は、不平反感の爆發せずと云ひ難し。露の如く内に強制壓迫しつつ外部に當ることは火薬を抱いて消火に向ふが如き結果となる恐れあり。

先づ統制するには、國民は國家の細胞であるから、五體たる國家を健全たらしむ可く、全身公平、平等に血液を循環せしむると同時に、分相應の活動を爲さしむ可く統制あり度きものである。一國も一身の如く、血液循環不順にして均衡を失ひたるとき、國家の恐る可き病源が生ずることになる。

人は大變賢い様に見ゆるが、案外役に立たぬ場合がある。如何となれば、自分で經驗した範圍と、肉眼で見える表面の皮の、半面の皮表しか見えぬ。その見えた心算の皮表が、又至つて頼りないのである。此の世で、一番永く統御して來た我が五體の病さへ、皮一枚の中を知ることが出來ぬ眼を以て、未だ世に會てなき、一大動搖期に遭遇せる國家の大患を、大手術せんとして、過去の學問に頼ることは、丁度

酒豪が酒の味を記載せる本を、自ら味ひたる經驗なき者が見て、強制的に國民に強ひるが如き結果となる。

人は體質により、一杯の酒で酔ふ者と、斗酒尙辭せざる者もあり、又好むと好まざる者もあり、又良藥とも毒藥ともなる。其時と、場所と、環境と、過去の關係で何れも國狀が異なるにも拘らず、自國の病源を觀破せずして、他人に施したる大手術を見て、自ら鈍刀を以て切斷手術を爲すことは、薄氷の上で小兒を亂舞せしむるより危きこと百倍、病菌はその不手際なるところに指して、早割れせし大地に水を投ずるが如く、中まで浸入し、除去することが困難となる。

現在の如く世界的非常時には、物價の高低は、人智を以て豫測し難き今日、人爲的に價格を制定する時、急激なる世界的騰貴を生ずれば、我が國內はそれに追隨し得ざる爲め、立處に、内地外商の手に依り、海外へ總ゆる物資は流出し去ることは明かである。

而して再び輸入せんとする時は、より高價なものを買はねばならぬ結果となる恐

れあり。

今日にして既に必需品各種が缺乏を來しつつあることは、其の影響によること尠からず。

輸出は物を金錢に替へることを目的とすることは平時の策で、此の非常戰時状態にある時は、國內により多く物資を充實すべく策を講ず可きである。それは對外のみに限らず、國內に於ても、金錢を目標に統制するよりも、國民の全機能を發揮せしめ、より多く物資を産出せしむることが國富のもとである。

今日にして各自は生活しつつあるこの上の働きは、理論拔きの利益を生ずるのである。故に國家は全國民を充分活動し得可く指導すべきである。

活動せしむるには、價格の統制も必要であるが、働くところに、利益を生ぜしむることが、より必要である。如何に生産を奨励するとも、利潤なきところに生産はない。最近經濟界は全面に亘つて、不安情態が刻一刻と深刻化して來た。その原因は、勿論戰時の爲め非常なる物資の消耗と、手不足による原因大なるも、他に物價

統制が、重大原因をなして居ることを、見逃すことは出來ぬ。

自然に生ずる物價の高低は、不自然の如く見ゆるも、徹見する時、その中に自然的に、統制されたる合理的價格が、生ずるのであることを、知らねばならぬ。

一體、物の價格なるものは、必要に應じて生ずるものである。故により必要なる物の不足する時、その需給の程度に應じ、充し得るところ迄、自然騰貴するに従ひ、其の利益のあるところに、自然生産力を集中し、程度以上生産過剰する時、需要家の必要程度迄下落し、自動的に調和し得られるのである。故により必要なる物の不足するところに、騰貴あるは當然である。

故に自然に生ずる相場は、材料の多少、手間の過不足、場所の遠近、内外情勢等一切の均衡を、人爲的以上に、合理化し得られるのである。故に物價の騰貴は、生産を増進し、消費を節約せしむる結果ともなるのである。然るに人爲的に、程度以上價格を抑壓し又は買占め、賣惜み等をなすことは、一少部分に因けられし小策にして、大局を謬ること甚し。

要は物の高低に非ず、よりよき物を、より多く、作り出すべく統制することが必要である。

今の経済は、個人單位の組織故、より多く産出せしむることは、より多くの利益を得せしむる可きである。

一個人の破産することは、一國の損失である。一個人の富むことは、一國の富むことである。

富める者は富まざる者より納税の負擔力が多いのである。如何に物價を抑制し得ても、生産が畏縮しては、根本目的に反することになる。非常時なるが故に、人為的統制に従へと云ふことは、非常時なるが故に、水の川上に流れよと云ふに異ならず。

價格統制の爲め、外國との均衡を失ひ、尙輸出業者に對する特典を與へる時は、純利を無視し、特典にのみ迷ひ、國家の損失を顧みず、投賣的輸出者の續出す恐れあり。

斯の如きは、對手國にとつては有利なるも、國民は刻々、氷の幽谷に沈まざるを得ない。

戦争は必ず武器丈けでは勝てぬ。昔から腹が減つては戦にならぬ。

戦争は手足だけが戦つて背中には何の働きもせぬのでない。

國內の民は背中の様な役割をして居るのである背中に大きな腫物が出来れば、手足の自由は利かぬ。

平和産業も無爲徒食せしむるより、働かせることが、國家の利益である。

平和産業を窮せしめる前に、活路を與へしむべきである。

國家の爲めに國民を有利に導くのが、爲政者の役目である。

又大なる者より、小なる者を善導する事が、大切である。

小なる者となつて働く時の大なる者の働は最も強し。

川上濁れば下亦濁る、其の濁りたる者を罪すれば國亡ぶ。

心善なりと雖も不明は惡に勝さる禍を生ず。

智有りとは雖も心正しからざれば道隠れ、禍衆に及ぶ。
自ら正からずして、人を正さんとする事は、消火に油を用ふるが如し。
奪ふ所に隠れ、與ふる所に現はる。民の爲に圖る時、國富む。國を思ひ民を思はざる者は、氷の中に火を求むるが如し。

現代の實相と大日本の使命

今や地下の準備なり、光明の世界に出んとしての鳴動は、世界非常時となり、全般に互りて一大動搖を來しつつあり。

此の一大動搖は、恰かも母體內の闇より、光明の世界に生れ出しめんとする惱に他ならず。

光明の世に出る時は、立處に、一切の矛盾は解消され、現世その儘、大神の御懷であることに氣付くのである。

現下の一般生活状態は左に進むも、右に行くも、不合理にして、已むを得ざる行動にして、眞の自由は悉く束縛され居るのである。それは胎内の子供が、生長するに従ひ、益々不自由なるが如く、今の世の人類は、極度の束縛を受けて居るのである。然し神は至善にして、世に惡を作り出すことなく、此の不自由なる束縛と、世

の總ゆる矛盾は、光明の世に生れ出しめんとするが爲に他ならない。蓋し氣付く者少きは、宛然さながら、母体内に居て母を知り得ざる如く、闇黒の如き現代に於ては、神意を認め難い。神はおろか、眞の自己を自覺することが出来ず、無明の闇に迷ひつゝあるのが、現代の世界であり、此世乍ら、地獄化して居るのである。

然し神は至善なるが故に、地獄と雖も、眞の悪は何處にも存し無いのである。

只人は迷へる爲めに、一切のものの順逆を誤つて、悪化せるに過ぎないのである。

然し一旦靈光が輝き、心眼を見開けば、立處に、世の矛盾は解消し、地獄は轉じて極樂となるのである。

それは母の胎内より出でて抱き上げられる時、自由と光明とが得られる如く、又胎兒が生れ出でて、母を知る如く、眞に目醒めたる時、世の大神を知り、眞の自覺が出来るのである。その母の如く暗黒の世界より、光明の世界に抱き上げるのが、天國の父であり、彌勒菩薩であり、世界の母親である。

その母親は世界何處にも無し、只大日本の肇國の精神にして、我國にのみ課せられたる。大使命である。

人爲さずんば吾れ立たん意氣以て

來り會せよ皇國の青年(青年は歳に非ず心に有り)

昭和十五年一月二十日 印刷
昭和十五年一月二十五日 發行

定價 金拾錢

發行者兼

大阪市西區西長堀北通三ノ一一
大塚 寬 一

印刷所

大阪市浪速區稻荷町二ノ九三三
井村書籍印刷所

發行所

大阪市西區西長堀北通三ノ一一
靈源閣
電話新町二九九一番

397
385

終

7
85